

会からのお知らせ

明けまして、おめでとうございます
新しい年を迎え、会員皆様の、幸福と益々のご活躍をお祈り申し上げます

◎ 2月定例役員会

日時：2月5日（土） 14.00～14.30 発送準備（有志による）
14.30～16.30 役員会

場所：東村山市民センター別館、第4会議室

なお、一般会員の方も時間の都合のつく方は気楽にご参加ください

◎ 早稲田大学三多摩稲門連合会総会

日時：1月22日（土） Pm5時開会、（受付開始Pm4時）

場所：京王プラザホテル・八王子（JR八王子駅北口東側）5F「翔王の間」

会費：10,000円

申し込み期限が過ぎて居りますが、参加される方は1月12日までに

東村山稲門会事務局、小亀宅、042-394-6951 または

八王子早稲田会事務局 城の内宜久氏、0426-45-8181へ連絡下さい

◎ 新入会員紹介

高橋 鶴次郎さん S38年、理工卒

東村山市久米川町1-35-1-412 ☎042-391-5316

なお、前回12月号でお知らせした、藤本 継男さん（富士見町）の退会は誤りで
会員を継続されます。（手違い、お詫び申し上げます）

同好会だより

S 麻雀同好会

99年最後を飾る第10回麻雀大会は12月12日(日)に4卓10名で熱戦をくりひろげ、優勝は前回に続き 谷城氏、準優勝は 土橋、3位 当間、4位 小野の各氏でした。表彰後、恒例の懇親会は忘年会となり、賑やかな楽しいひとときを過ごしました。今回も差入れを戴いた方有難うございました。今回不参加でしたが小亀氏から多大の差入れをいただきました謝謝。また10回を迎えるに当り、今回より記録を残すため優勝杯のプレートに歴代の優勝者名を刻みました。大西、三宅(3回)、山下、木谷、小野、小亀、谷城(2回)の各氏です。

なお99年のランキングは、1位 土橋(+172)、2位 谷城(+126)、3位 小亀(+105)、4位 松永(+69)の各氏です。

2000年の第一回は、3月12日(日)におこなう予定です。

ところで同士の皆さん麻雀博物館があるのをご存知ですか？

実は昨年4月に九十九里浜近くの千葉県岬町に出来ています。我が同好会も視野を広げ勉強のため少し暖かくなったら、博物館見学の麻雀ツアーも企画したいと思っております。

連絡先 小野 ☎ 391-9523, 田口 ☎ 395-4077

S 絵画同好会

今年は新年早々から大きな収穫がありました。

元旦に一色 泰久(昭43文)さんの賀状兼個展案内状が届き、第10回個展をJR有楽町駅北口前の東京交通会館B1のGALLERY玻璃で1月9日から15日までの間開催されることを知りました。筆者が一色さんの名を知ったのはかなり古く、案内状の写真から大へん上達されたことを感じました。昨年当会に入られたとのことで、これからが楽しみです。9日(日)、10日(祝)、15日(土)は個展会場に居られるとのことです。私は15日の午後会場に伺う予定です。絵画が好きな方は是非ご覧下さい。

(塩見)

連絡先 長井 ☎ 393-0795 or 塩見 ☎ 395-3718

テニス同好会

○新年１月度例会のご案内

新春のお慶びを申し上げます

新春第１回目の例会が下記にて決まりました。

寒風に負けないう、頑張りましょう。

記

日 時 平成１２年１月１５日（土）
午後１時～３時

場 所 東村山市運動公園テニスコート（Ｄ・Ｅ）

幹事 当 間 TEL 391-6023



ゴルフ同好会

○平成１２年ゴルフ同好会プレー予定

明けましておめでとうございます。

ゴルフ同好会も４年目を迎えました。今年も四季折々にグリーン上での交流を進めていきましょう。

年間プレー予定表

内 容	時 期
第７回会長杯	４ 月 中旬
薫風満喫ラウンド	５ 月
猛暑耐久ラウンド	７ 月・８ 月
第８回会長杯	１０月 中旬
忘年ゴルフ会	１２月



上記以外にもいろいろなチャンスをとらえて、プレーを企画したいと思いますので、土日・平日にこだわらずご要望下さい。

世話人 井垣 TEL&FAX(396)3100

園芸の会

第7回園芸の会(再掲)

幹事 三宅 良太 TEL042-394-5298

土橋 雄次 TEL042-393-5708



藤澤博恭氏(昭29政経)のご好意で丹精して育てておられる桜草の芽分けや、さぎ草の植え付けをご指導頂き再挑戦をすることになりました。多数のご参加をお待ちしております。準備の都合が有りますのでお名前をご連絡下さい。

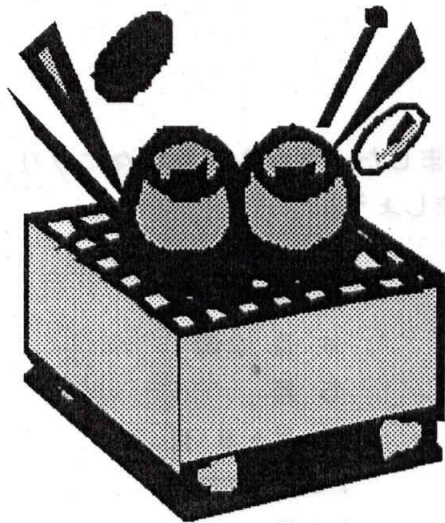
日時：2000年2月19日(土) 14時～16時

場所：東村山市民センター (予定)

囲碁・将棋の会

幹事：鈴木 国夫 TEL042-394-2052

：江藤 昌明 TEL042-391-4076



第3回囲碁・将棋同好会を12月18日(土)午後1時から市民センターで開催しました。

今回は10名の参加で、すべて囲碁の方達による熱戦でした。囲碁は全くの初心という戸田さんが参加され、野村二段から懇切な個人指導を受けておりました。どうぞ初心者も遠慮なくご参加下さい。

次回は下記により行います。

日時：2月26日(土) 午後1時～5時

場所：市民センター(市役所前) 第4会議室

S 山とハイキングの会

第4回の山歩きは予定通り11月27日(土)、西武池袋線の東吾野駅から鎌北湖を目指しました。参加者(敬称略)は、額田 伊久夫, 三宅 良太, 市川 久美子, 久保 英二, 同夫人, 土橋 雄次の6名でした。(土 橋)

第4回 「鎌北湖を訪ねる道」ハイキングに参加して

久保 紀代子(久保 栄二氏夫人)

ハイキングには絶好の秋晴れの日、以前から一度行って見たいと思っていた奥武蔵の湖を訪ねる会に参加しました。東吾野駅を下りて、なだらかな登り道から少々きつくなっただかなと思うと又平坦な道になり、そこだけ平らな畑のあるユガテに着きました。猫が二匹遊んでいました。さらに登り降りを2〜3回繰り返し(これが標高400mか?!)目指す鎌北湖へ……。が、何と残念!!、うわさの「乙女の湖」は湖底の工事中で水が抜かれていたのです。それでも湖畔のもみじは紅に染まり、午後の陽に照り映えてとても美しかった。帰路は北向の御地藏様をお参りし、その歴史的由緒を室町時代にも遡る「五常の滝」で記念撮影。幾筋かの勢いの良い流れを見ながらしばし休息しました。

それにしてもメンバーの皆さんの健脚には秘かに感嘆しました。大満足の日でした。

山とハイキングの会よりお知らせ

本年第1回目の行事は、趣向をかえて、街の中を歩いてみたいと思います。

2月下旬頃、東村山市近郊をウォーキングして見ませんか。

詳しくは2月の稲門会ニュースでご案内致します。

編集後記

◎ 平成12年の元旦は穏やかに晴れて明けました。英国のようなヤード, ポンドの国では今年が世紀の始めだと云われ、メートル, グラム圏では来年からが新世紀だと解釈されています。どちらも感じ方の問題でどちらが正しいかなどと論争をするのは野暮のすることで、そうかそうかと聞き流してミレニアムと云うトンネルを通過する間に自分は何を為すべきかと足元を固めその経過を記録するのが宜しいようで、その結果の一部を本紙に投稿されては如何でしょうか。

◎ 年末から年始にかけての時期は東村山稲門会創設以来、会報発行のために多数の担当者が奮闘します。その結果が他の稲門会の方々から羨ましがられる出来栄の会報となって表れることは周知の事実です。勢い本紙の一月号は減頁とならざるを得ませんが、この機会を生かして日頃は本紙で触れられることの少ない複数のテーマを取上げることになります。

○ 学生スポーツのひとつの側面。

ここでは正月恒例の箱根駅伝についてその印象を述べることにします。

駅伝は我国独特のスポーツでリレーマラソンのかたちをとります。最近では女子の体力向上を背景に女子駅伝が催され駅伝が我国の陸上スポーツ界により定着しました。

特に箱根駅伝は一月の寒冷期に、高低差の激しいコースを往復して順位を競うスリルに富んだレースで人気があります。このような条件の厳しいチームレースは、結果としての順位を翌日の新聞で確かめるだけでなく、各大学がチームのエースを集める区間に携帯テレビ持参で出掛けて、疾走する選手の表情と走り方を直接目にすることで競技に自分も参加している感覚に浸れます。

今年の早稲田は去年のシード落ちから立ち直り上位に入りました。学生スポーツはプロや実業団と異なり卒業と言う関門があって、前年の強力チームが今年は低位となる意外性がありそこが人気の源となっております。駅伝の場合も例外ではなく今年も劇的な場面が多々あり、若い学生諸君が掛け値無しで全力を尽くす場面は、神々くさえありました。

○ 大久保校地について

筆者が人生の大半を過ごした理工学部は、昭和38年から41年にわたり西早稲田から現在の大久保校地に移転しました。移転直後に全国的で大規模な大学紛争が起こり、早稲田の学生は理工学部の施設・設備を破壊の対象から外し一部の損傷は他大学の学生によるものに限られたため紛争後の修復は簡単に済みました。

その後の政府の科学振興対策と、ソビエットの宇宙技術開発の刺激によって大久保校地は急速に充実しました。早稲田は他大学のように都心に残るか郊外に移転するかの二者択一の姿勢をとらず、都心にも在り郊外にも在るという腹の太い態度が功を奏して百周年を期に大飛躍を遂げました。

現在は校地を余すところ無く活用し尽くして校地西北隅の建替えを行っているとの連絡があり特に、高速国際情報通信網および半導体集積関連の変容は目覚ましいものがあります。理工系は単に見ただけでは内容が判りにくくまた、学会発表以前は成果の公表を避けるのが常識ですので見学などには向かない傾向がありご案内しにくいので残念ですが、現職の方々の力を信頼して時折学会誌を読むことにしております。

これらを総合して当会に多数居られる理工系出身の方々と共に、我々の揺籃の地の一層の発展を望みたいものです。

(以上 塩 見)